

令和2年度 第2回 忠別川における河道の質的整備に向けた検討ワーキンググループ 議事要旨

- 日時：令和2年12月23日（水）15:00～17:00
- 場所：web会議（旭川開発建設部旭川合同庁舎より発信）
- 出席者：

所 属 等	氏 名
国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 寒地河川チーム 主任研究員	井上 卓也
北海道大学大学院工学研究院 准教授	岩崎 理樹
北海道大学大学院工学研究院 教授	清水 康行
国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 室長	福島 雅紀

※五十音順、敬称略

■議題

- ・ 忠別川の河道変化要因
- ・ 氾濫の危険度分析
- ・ 対策必要箇所抽出
- ・ 対策案の検討

■ワーキンググループの様子



【議事要旨】

■忠別川の河道変化要因について

- 河岸侵食発生および侵食幅の判定については、全川において摩擦速度および無次元掃流力の縦断面図を整理し、各諸量の縦断的な変化から河岸負荷を検討すると良い。

■氾濫の危険度分析について

- 河岸侵食による氾濫リスクの危険度分析については、分析の手順および内容をわかりやすく整理すると良い。
- 実際の河岸侵食箇所と計算結果（平面図等）を比較して評価手法の妥当性を整理すると良い。
- 河岸侵食による土砂発生が下流に及ぼす影響について、部分的にでも把握しておく必要がある。

■対策必要箇所の抽出について

- 氾濫した場合の危険性および想定される被害状況についてイメージしづらいため、対策の必要性について切迫感が伝わる資料を作成すると良い。

■対策案の検討について（第3回WGに向けて）

- 対策河道における礫移動および水深確保の考え方については、ダム操作した場合の過去実験に基づく確率流量からも検討すべきである。また、実績川幅変遷等から、過去流況における河道の安定状況についても確認すると良い。
- 対策河道の川幅については、安全率を考慮した川幅を設定するなど、川幅が維持できなくなることを想定して検討すると良い。
- 対策河道の覆礫における実施方法および粒径構成について検討するべきである。
- 巨石付盛土砂州の適用にあたっては、配置が重要であり、上手く配置すると下流側の河道整正が不要になることも考えられる。